

ETVのISO化に関する国際動向

2016年7月25日

1. ISO化の動向

環境技術実証事業（ETV）に係る提案書（NWIP）が2012年10月16日にISO事務局により正式に受理され、ISOのTechnical Committee207のSub Committee4（SC4）にてISO-ETVが検討されることとなった。11月8日に、ISO事務局からTechnical Committee207のSub Committee4のメンバー国に対し、提案に対する検討の賛否の照会がなされた。その結果、2013年2月8日に国際標準化機構（ISO）より賛成多数で可決となったとの連絡があり、2013年5月にETVの国際標準化の草案を検討するための、各国から推薦される専門家より構成されるワーキンググループ（WG）（主査：カナダ）が立ち上げられた。

その後、同年6月の第1回WG、10月の第2回WG、2014年1月の第3回WG、同年5月の第4回WGにおけるワーキングドラフトの議論を経て、7月22日にISO事務局よりSub Committee4のメンバー国に対し、コミッティードラフトへの移行に対する賛否の照会がなされた。その結果、10月29日に国際標準化機構（ISO）より賛成多数で可決となったとの連絡があった。また、同年12月に第5回WG、2015年9月に第6回が開催され、日本も参加した。

2015年12月に第7回WGが開催され、FDIS案が取りまとめられた。

投票前の最後のワーキングとなったISO-WG第7回会議の概要は以下のとおり。

○第7回 ISO-WG（2015年12月14日～18日、ブラジル・サルバドール）

（第7回ISO-WGの検討議題）

- ① ISO/FDIS 14034案の最終化
- ② ETVに関するワークショップ（ブラジル向け）の開催

（第7回ISO-WGのまとめ）

- ・ ISO/FDIS 14034案のテキストが合意された。
- ・ テキストは、WG内で確認後、ISO事務局に送付され、FDISの投票にかけられる。
- ・ relevant technology、significant environmental impacts and environmental added value、performance parameter、applicable regulatory requirementについて、定義を含め、想定するものについて議論し、Annex Cに例示等を示した。
- ・ 今後について、technical guidelineや相互認証について、国際的な議論のニーズがWG参加者で認識されている。当面は、WGメンバーの非公式な議論を継続し、必

要なアクションがまとめれば次のステップを設定することになった。

(第7回 I S O-WGの所感)

- ・ ETV の手順について、相互理解を深める機会となった。
- ・ 今後については、各国の動きをウオッチすることが重要である。

事務局からの情報では、FDIS の投票が本年 8 月 10 日に開始され、2 ヶ月後に結果が出るとのことである。

第 8 回 WG は、本年 8 月 30 日～9 月 1 日に、韓国・ソウルで開催予定である。

2. I W G-E T Vの最新動向

アメリカ、カナダが中心となり、E T V 事業の国際連携・相互実証に向けた作業部会として、I W G-E T V が立ち上げられた。E T V 事業を実施している、カナダ、欧州委員会、韓国、フィリピンがメンバー国であり、日本、米国、中国はオブザーバーとして参加している。

2013 年 11 月 1 日にカナダのオタワで第 10 回 I W G-E T V が開催されるとともに、不定期に開催される電話会議で、E T V を実施する各国間での情報共有が行われている。

第 10 回 I W G-E T V (2013 年 11 月 1 日開催)以降は、国際電話会議のみであり、最近の概要は以下のとおり。

○ I W G-E T V 国際電話会議 (2016 年 3 月 23 日)

以下の議題の検討がなされた。メンバー国の欧州委員会、カナダ、フィリピン、韓国、オブザーバー国の日本が参加した。

(検討議題)

- ① I S O-E T V の最新動向 (I S O のアップデート、発行後の検討事項)
- ② 各国 E T V の最新動向
- ③ その他 (EU 作成の啓発パンフレットについて、次回から議長は韓国)